

研究発表もうしこみフォーム

氏名：白那日蘇（ハク ナルス）

氏名のローマ字表記：HAKU NARUSU

所属：神戸大学国際文化学研究科 博士後期課程 D3

専門分野：歴史学

発表のタイトル：蒙疆政権下の軍事人材育成機構について

発表要旨（600字～800字程度）：

内モンゴル近代史において、軍人を育成する軍官学校としては満州国の興安軍官学校と蒙疆政権の幼年学校、蒙古軍総軍軍官学校が挙げられる。興安軍官学校は、日本の陸軍士官学校出身のジョンジョールジャブの提案によって、満州国の純粋なモンゴル人軍人を育て訓練するために鄭家屯で創設された。1939年に陸軍軍官学校と名称が変更される。西部内モンゴルでは、1936年に蒙古軍政府が設立されてから、徳王がシリングル盟スニト右旗で最初に「軍官学校」を創設した。この学校は、1939年に日本の軍事顧問によって蒙古軍幼年学校が創設されるとともに閉校となった。その後、1943年には総軍軍官学校が設立される。満州国と蒙疆政権におけるこの二系統の軍官学校は、近代内モンゴルが軍事強国に学んでモンゴル人軍人を育てようとした軍官学校であった。

内モンゴルの近代化に影響を与えた国としては中華民国、ソ連、日本などの国が挙げられるが、モンゴル人だけで自主的に教育を施すことが難しかった蒙疆政権は、やむを得ず日本と協力し、軍官学校、幼年学校、総軍軍官学校の相次ぐ設立によってモンゴル人の軍人や教官をようやく自主的に育てることができるようになったのである。

徳王は西部内モンゴルにおいて複数の学校教育機関を設置したが、その内の軍官学校を取り上げて蒙疆政権の軍事面を強化するための手段として検討すれば、徳王のこの政権が軍事面でいかなる方針を持っていたかを解明できるであろう。また、蒙疆政権の蒙古軍においてこの軍官学校がいかなる意義を持っていたのか、モンゴル人部隊に何をもたらしたのかを明らかにしたい。その際、史料として当事者たちによる回想録、日本側が残した当時の記録等を利用する。本研究の結論としては、蒙疆政権のこれらの軍官学校を設立するに当たって最も重要な役割を果たしたのは、日本側の軍人たちではなく徳王その人であったという事実である。